

2026年度大学院博士前期課程学内選考試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 英文学専攻	英 語 学

以下の8つの用語のうち、4つを選んで、それぞれ具体的な例を挙げながら説明しなさい。
なお、選択した問題の番号をそれぞれの解答の最初に記すこと。

1. allophone
2. analytic language
3. backformation
4. doublet
5. euphemism
6. free morpheme
7. inkhorn terms
8. Received Pronunciation

解答または解答例：

Answer Keys or Examples：

1. allophone（異音）

同一の音素が、音声環境や音韻規則の影響によって異なる音として実現される場合のそれぞれの音を指す。異音の違いは意味の区別に関与せず、相補分布をなすことが多い。

例：pin の語頭の [p^h]（有気音）と spin の [p]（無気音）は、音素 /p/ の異音である。

2. analytic language（分析的言語）

語の屈折変化が乏しく、語順、前置詞、助動詞などの機能語によって文法関係や統語的役割を示す言語を指す。

例：英語は語形変化が乏しく、語順や前置詞によって文法関係を表す分析的言語である。

3. backformation（逆成）

既存の複合語や派生語を形態的に再分析し、より単純な形を基本形と誤認することによって新たな語が作られる語形成過程を指す。

例：editor が edit + -or と再解釈され、そこから動詞 edit が生じた。

4. doublet（二重語）

同一の語源から異なる時期や経路を通じて借用され、形態や意味に差異をもつ二つの語が、同一言語内に共存する場合を指す。

例：warden と guardian は二重語である。

5. euphemism（婉曲表現）

社会的・心理的に不快、禁忌、または直接的すぎると感じられる表現を、より穏やかで間接的な表現に言い換える語用論的手法を指す。

例：pass away は、die という直接的な表現の代わりに用いられる婉曲表現である。

6. free morpheme（自由形態素）

単独で語として使用可能な最小の意味単位であり、文中で独立して現れることができる形態素を指す。これに対し、接辞などは拘束形態素である。

例：school, work, book は、それぞれ独立して用いられる自由形態素である。

7. inkhorn terms（インク壺語）

16 から 17 世紀の英語において、学者がラテン語やギリシャ語から大量に借用した、学術的・人工的で難解な語彙を指す。しばしば過度に気取った表現として批判された。

例：eximious「すぐれた」、fatigate「疲れさせる」などはインク壺語である。

8. Received Pronunciation（容認発音）

イングランド南部の上流・教育階層の発音を基盤とする、地域色の少ない伝統的な標準英語発音で、長く辞書や放送英語の規範とされてきた。

例：RP では、ask は、/ɑːsk/、hot は、/hɒt/のように発音される。

出題意図：

Intent of Questions：

英語学の基礎的概念について、用語の正確な理解と具体例を用いた説明能力を問う。あわせて、各概念の本質を捉え、論理的に記述する力を評価する。